

【妻沼地域文化財調査研究会企画 妻沼聖天山奉納絵馬 記念講演会】
考察「妻沼聖天山における絵馬・奉納額群の調査研究の経緯と成果をめぐって―」

熊谷市立江南文化財センター 山下祐樹

妻沼聖天山においては、本殿で国宝の「歓喜院聖天堂」などに多くの絵馬や奉納額が寄進されてきた。これらの作品は妻沼聖天山の歴史を今に伝える貴重な資料であるとともに、建造物の保存などに多くの想いを寄せた先人たちの歴史を明らかにするものである。本展覧会では「歓喜院聖天堂」の国宝指定5周年を記念し、現在まで一般公開される機会がなかった絵馬と奉納額を特別に展示することを目的として企画された。展示に向けた調査により、妻沼聖天山に収蔵されていたこれらの絵馬群が一級の美術品としての価値を有すること、また熊谷の歴史を語り継ぐ貴重な文化遺産に位置付けられることを再認識するに至った。

平安時代末期に遡る妻沼聖天山の歴史の中で、今回の絵馬・奉納額の多くは江戸時代以降のものであるが、その多くが国宝「歓喜院聖天堂」に対する信仰の在り方や、建造物の保存修理を含めた寄進の状況についての証となる資料である。なお、平成の大修理によって本殿の「歓喜院聖天堂」に掲げられていた多くの絵馬・奉納額が取り外され、それぞれの物自体が調査対象となり得る経過を辿ったことも、本資料の理解に向けての契機となったといえよう。

明治時代に撮影された聖天堂の写真を確認すると、本殿の内、拝殿の上部に所狭しと多くの絵馬・奉納額が掲げられている。現在、屋根部の改修を含めた大規模な保存修理後の状況として、拝殿の側面においては装飾物や掲示物は皆無であり、側面の茶色系の漆塗りが露わになっている。一見、奥殿の極彩色彫刻群と比べて簡素な印象を受けるのは、その権現造の構造に帰着するだけでなく、拝殿に掲げられていた巨大で荘厳な奉納額群がないという点にも関係しているように推測できる。しかしながら、これらの奉納額群を再びの位置に戻した場合、聖天堂全体の建造物としての保存にも支障を及ぼすことも予想される。一枚あたり100kgを超える奉納額が複数あり、こうした加重の特に拝殿部に与える負荷要因を考えた時、絵馬・奉納額の保存と建造物の保存については別の次元の見地として方策を検討する必要があることが分かる。

これらの奉納額群について妻沼聖天山では国登録有形文化財「歓喜院籠堂」から国宝「歓喜院聖天堂」をつなぐ渡り廊下の下に特別に収蔵庫を設け、保存を行っていた。平成の大修理が開始される平成15年(2003)3月から7月にかけて奉納額群が取り下げられ、同時期に設置された収蔵庫に収納する作業が地元総代会や商工会などによって進められた。その作業の直前及び狭間において、妻沼町文化財調査研究会が奉納額群の撮影や採寸などの調査を実施し、報告書としてまとめられた資料がある。この報告は奉納額の一部のみを対象としたもので、小規模な額や絵馬についての記載はなかったものの、今回の調査に向けた基礎的資料となった。長期間に亘り本殿の上部にあり判読困難であったものに対して、その当時における可能な限りの調査を実施した意義は大きく、この成果報告への通読が、初の公開に向けた契機となったことは確かである。そして歓喜院聖天堂の国宝5周年事業としての事業推進の機運を高めるに至った。

平成29年度(2017)における事業において本特別展が実施される運びとなり、平成29年3月より現地での調査を開始した。聖天堂から取り外された後から約10年が経過し、多くの奉納額・絵馬群には塵埃が付着するなど、収蔵庫での保存的管理にも限界が感じられ、公開に向けての保存措置についての検討を行った。特別展の会場は妻沼聖天山から約1km離れた妻沼展示館であり、毀損箇所の確認を始め、その運搬手段についても多くの課題が残されていた。奉納額のうち相当量の規模と重量を有する約10点の取扱いについては、軽作業では収まらない困難性を孕んでいたために、運搬方法に関しては、業者委託を念頭に、人員確保と配置をあらかじめ計画する必要があった。また、刻印や文字などの判読が困難な程に塵埃や土砂が付着していた額群については、運搬を前に刷毛による除去など初期段階としての保存処置を実施し、運搬後において展示に向けた細微なクリーニングを実施することにした。

これについて付言すると、妻沼聖天山の収蔵庫に収納される前の保管状況についても関係者からの聞き取りにより判明し、聖天堂の保存修理事業前の現地での切迫した状況を知るに至った。保管箇所が渡り廊下の下部で屋根はあるものの、ほぼ露出した状況での保存が一定期間続き、その後、同位置に完成した収蔵庫への収納の際にも特段のクリーニングや保存措置は行われていなかった。その際に受けた風雨など自然環境からの影響が直視できた。こうした現状から特別公開に向けての保存処理が必須となり、多くの時間と費用が充当できない中で、塵埃の除去と剥落部の修繕を実施し、全体的に見受けられる絵画の変色や文字に掠れなどについては今後の保存処理への検討に委ねることになった。

平成29年5月25日、奉納額・絵馬群を収蔵庫から取り出し運搬する作業を行うとともに、初期段階で

のクリーニングを実施した。運搬では中型トラックを用いて、作業員約20名の協力により、妻沼聖天山と妻沼展示館の間を往復した。山岡鉄舟及び奥原晴湖の揮毫による奉納額は当収蔵庫ではなく、前者は籠堂内、後者は歓喜院本坊で保存されており、併せて借用し展示館へ搬入した。夥しい量の塵埃が積載された絵馬もあり、移動前後において刷毛や布を用いての除去作業を実施した。また、当初の保管状況については既述したとおりであるが、本殿から下ろした後に渡り廊下の下で保管され、その場所に収蔵庫が設置された。その際に扉も設置されたのであるが、規模の大きい絵馬・奉納額のサイズより小規模の扉であったために、それらの収蔵庫内から室外への取り出しに困難を極めたものも複数あった。傾斜させて取り出す方法を用いたものもあり、中には取り出しが不可能な絵馬が2点あり、特別展示への出品を断念するに至った。

妻沼展示館の小展示室にて一時的に保管し、同室を大展示室での展示に向けての保存措置やクリーニング、そして調査研究を行うための工房とした。測量及び額や絵馬に記されている内容の把握・分析を行い、文字の解読により奉納の目的や意図、その概要についての理解を深めた。この調査研究に基づき展示物の目録リーフレットを作成し、調査によって判明した知見等の概要内容は本報告にも掲載したところである。また展示に際しては、想像以上に重量があった奉納額数点について、観覧の際の安全性を念頭に置き、導線計画を進めた。展示においてはそのキャプション解説を通じて、妻沼聖天山の信仰形態の変遷を含めた通史的側面に配慮した。特に妻沼聖天山境内の様子が描かれた絵馬数点の配置を並列とし、比較しながら、絵師の視線や登場人物の位置などを体感できるように心掛けた。

特別展においては、準備段階での計画、運搬と保存処理の検討、調査、展示、啓発、情報発信に向けた取り組みなど、妻沼聖天山の歴史に付随する様々な事象に向き合いながら、作業を進める工程を辿った。それが「歓喜院聖天堂」の国宝5周年及びその後の妻沼聖天山御本尊御開扉を祝すだけでなく、歴史的な知見の獲得につながり、この時点における学術的成果を一定程度得ることができたと考えられる。今後の課題として、これらの調査成果を踏まえて、奉納額の保存、絵馬における修繕等の措置について検討を続ける必要がある。また、調査の継続によって妻沼聖天山における民衆の信仰について、また資金面を含めた寺社への寄進に関する形態や方法論について、そして美術品ともいえる作品群に対する芸術家の関与参画について、更なる解明を進めていくことが求められている。今後とも妻沼聖天山の歴史に関する貴重な歴史資産とし保存継承が図られるようお願い、また筆者自身もそれらの調査研究を進めていく所存であることをここに明かして考察を閉じたい。

参考文献・資料

- ・埼玉県立民俗文化センター『埼玉県立民俗文化センター研究紀要 第2号』1985年
- ・埼玉県立民俗文化センター『埼玉県立民俗文化センター研究紀要 第6号』1990年
- ・埼玉県立歴史と民俗の博物館『埼玉の絵馬 祈りの風景』2007年
- ・埼玉県立歴史資料館『埼玉の武者絵馬 資料館ガイドブック No.10』1994年
- ・埼玉県立博物館『特別展「絵馬」展示品図録』1979年
- ・埼玉県立博物館『奉納された道中アルバム 絵馬にみる寺社参りテーマ展』1994年
- ・岩井宏実『絵馬 ものと人間の文化史』法政大学出版局 1974年
- ・立正大学北埼玉地域研究センター『熊谷の絵馬 庶民の祈りと暮らし』1992年
- ・熊谷市立図書館『くまがやの絵馬展』1984年
- ・妻沼町文化財調査研究会『妻沼聖天山本殿奉納絵馬 国指定重要文化財「歓喜院聖天堂」』2005年
- ・大宮市立博物館『絵馬 庶民の祈りと暮らし』1988年
- ・至文堂『日本の美術 No.92 絵馬』1974年
- ・島田桂一郎『埼玉の絵馬』埼玉新聞出版部 1971年
- ・埼玉県立歴史資料館『埼玉の武者絵馬』1994年
- ・利根川文化研究会『利根川・荒川流域の生活と文化』国書刊行会 1995年
- ・群馬県立博物館『群馬の絵馬』1976年
- ・群馬県立博物館『絵馬 そのすがたと信仰』1983年
- ・丸山知良『群馬の絵馬』みやま文庫 1986年
- ・召田大定『絵馬巡礼と俗信の研究』慶文堂書店 1967年
- ・岩井宏実『日本の絵馬 日本の美と教養』河原書店 1970年
- ・馬事文化財団『近世の大絵馬』1979年
- ・山崎禅雄、印南敏秀『日本人の生活と文化 11・祈願のかたち』日本観光文化研究所 1982年
- ・宮家準『日本の民俗宗教』講談社 1994年
- ・熊谷市立江南文化財センター『歓喜院聖天堂 国宝指定5周年記念 特別展「妻沼聖天山の絵馬展」』図録解説リーフレット 2017年
- ・熊谷市立江南文化財センター『妻沼聖天山の絵馬展』調査データ 2017年
- ・山下祐樹、金子兜太『熊谷ルネッサンス—熊谷の歴史と文化遺産を結ぶ「道」—金子兜太「熊谷の俳句」』オーケーデザイン 2017年
- ・山下祐樹『妻沼聖天山の絵馬・奉納額—妻沼聖天山における郷土文化と人々の祈りを伝える歴史資料の概要—』熊谷学ラボラトリー 2018年